

神谷ベルト株式会社

紙書類を事務作業員や営業が基幹システムに手入力をしているが、時間がかかる且つヒューマンエラー発生などにより、業務が非効率になっている。

神谷ベルト株式会社 概要・実証計画【1/2】

企業概要

企業名	神谷ベルト株式会社
所在地	名古屋市中区
代表	伊藤 宗宏
資本金	1,500万円
従業員数	30人程度
事業内容	ゴム・プラスチックの総合商社

概要

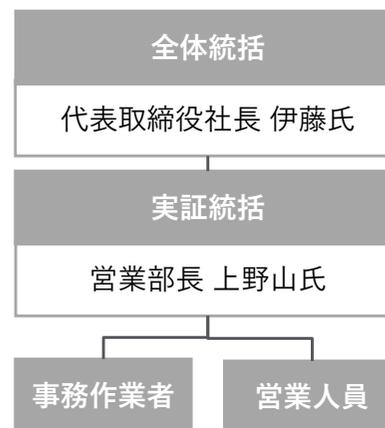
- 工業用ゴム・プラスチックを通して、あらゆる産業の発展と環境に貢献する企業を目指している。
- 様々な商品を豊富に取り揃えており、短納期での納品を実現させます。
- 「人にやさしく、環境にやさしく、地球を大切に。」をテーマにお客様へ最大の満足をご提供できる商品も開発している。素材の特徴を活かした企画・開発を行い、次世代に残る商品を今後も開発している。



デジタル化推進の背景

- 注文依頼や見積依頼を1日500枚程度受信しており、紙書類が大量に届く状況になっている。
- その紙書類を事務作業員や営業が基幹システムに手入力をしているが、時間がかかる且つヒューマンエラー発生などにより、業務が非効率になっている。
- 紙書類をOCR機能を用いてデータ化し、基幹システムに取込を行いたいと考えている。

実証体制



- 上野山氏が中心となり、全体統括の伊藤氏がフォローしつつ「DX Suite」の導入を推進した。
- 実際に手入力業務を実施していた事務作業員にも「DX Suite」を触ってもらいつつ、積極的な取り組みを実施した。

注文書や見積書などの紙書類を自動的にデータ化することで、課題となっている手入力作業を限りなく0にすることを目指す。

神谷ベルト株式会社 概要・実証計画【2/2】

最終的にデジタル化で達成したいこと

OCRによる手入力作業の削減

- 事務作業や営業人員が基幹システムへ手入力している煩雑業務を削減し、効率化を図りたい。

RPAと連携させ、一気に通貫した自動化

- OCRで自動的にデータ化された情報を、RPAを連携させることで人の手を介さず又は限りなく省人化して、一気に通貫したデジタル化を実現したい。

今回実証で実施したいこと

OCRによる手入力作業の削減

- 事務作業や営業人員が基幹システムへ手入力している煩雑業務を削減し、効率化を図りたい。

目標とする成果

手入力による転記作業を限りなく0にする

- 注文書や見積書を自動電子化することで、手入力によるアナログ作業をほぼ0にしたい。

実証で利用するツール

導入ツール	DX Suite <small>※「DXSuite」はAI inside株式会社の登録商標です。</small> 
導入費用	DX Suite Lite 月額30,000円～ ※2023年1月末日時点
ツールの説明	<ul style="list-style-type: none">➤ AI inside株式会社が提供する、文字認識AIにより手書きの文字を高い精度で読み取ることができるOCR（Optical Character Recognition:光学式文字読取）。➤ 定型の帳票から、請求書、函面、契約書といったフォーマットが異なる帳票でも読取りが可能。クラウド版、オンプレミス版があり、希望の環境にあわせて構築が可能。

- 文字認識AIを用いた文字読み取りを実現する「DX Suite」を導入し、煩雑な紙情報のデータ化を目指した。
- 様々な取引先から送られてくる請求書などの紙帳票を、適切な電子データへと変換させ、事務効率の向上を図った。
- RPAを活用した既存システムとの連携も目指しており、一貫したデジタル化を検討している。

初めから複数の取引先に導入するのではなく、主要先からの紙書類に絞り込み、スモールサクセスを実現させた。

神谷ベルト株式会社 実証実施結果【1/3】

解決を目指した具体的な課題

ツールへの理解及び使い方の修練

- ツールの使用に当たり、事前設定などの細部を専属SEと詳細を詰めていった。一方で、ツールが持つ機能を適切に理解していないと使いこなせない場面もあった。
- また、使い慣れてくればスムーズに実施できるが、担当者が限られてしまうと、余計な時間がかかってしまうこともある。

読み込み帳票の選別

- 帳票によって読み取る量や箇所、数が異なるため、事前の設定が煩雑化してしまう。
- 複数の取引先へ導入しようとする、形式等が異なり事前設定が煩雑化してしまった。そのため、主要先の絞り込みに時間がかかってしまった。

Sample



課題解決に向けた具体的な取組内容

取引先の絞り込み

- 初めから複数の取引先に導入するのではなく、主要先を絞り込み、スモールサクセスを実現させた。
- 紙書類での帳票が多い取引先をリストアップし、帳票形式が比較的統一されている先を主要先として絞り込んだ。

紙書類の自動データ化に加え、基幹システムへの自動入力される準備が整った。 紙情報を一貫したデジタル処理の実現を目指す。

神谷ベルト株式会社 実証実施結果【2/3】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

吐き出されたデータのカテゴリズ

- 機械的な電子データが出来てしまうため、どのデータが何の情報化を紐づけることが難しかった。
- 基幹システムのベンダーと協議して、解決方向性を見出した。

取組に要した工数

トライアル期間1ヶ月

1. SE面談 : 6時間 (1時間×2回×3人)
2. ツールの勉強会 : 15時間 (5時間×3人)
3. 社内ミーティング : 10時間 (1時間×5回×2人)
4. 作業時間 : 30時間 (2時間×15日)

取組の成果

紙媒体情報を一貫したデジタル処理する準備が整いつつある

- csv形式で電子化されたデータをベンダーを活用して基幹システムへ取り込んでいる。
- 現状は人の手を介して取り込みまで実施しているが、今後はRPA等の自動化/デジタル化ツールによる一貫処理を目指しており、その準備が整いつつある。

初めは難しいと感じるDX導入ですが、取組んでみると意外なほど理解が進む。
チャレンジを恐れず、積極的にDXに取り組むことで、新しい可能性が広がる。

神谷ベルト株式会社 実証実施結果【3/3】

今後の課題・目標

(デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

OCRを活用する取引先数の拡大

- 主要先を選定して「DX Suite」を導入した。OCRの利便性については確認できたため、今後は広く展開したい。

後工程におけるRPAの導入

- OCRで自動的にデータ化された情報を、RPAを連携させることで人の手を介さず又は限りなく省人化して、一気通貫したデジタル化を実現したい。

社内業務のデジタル化推進

- アナログ的な事務業務をターゲットとしてデジタルツールを導入。前向きな結果を得られたため、今後も社内業務のデジタル化を推進したい。



伊藤氏

初めはDXが難しいと感じましたが、取組んでみると意外なほど理解が進みます。経験を通して得る知識や成果は、企業の成長に大きく寄与します。チャレンジを恐れず、積極的にDXに取り組むことで、新しい可能性が広がります。



上野山氏

デジタル時代は待たなしで突き進んでおります。
ツールも多種多様で選定も悩みどころですが、業務簡潔化することにより新しく取り組める別の何かが必ず生まれます。
新しい業務を遂行することが企業のステップアップ＝成長へ繋がります。
「費用」「不慣れな運用の手間」「費用対効果の不安」などより「次にあんなことやこんなことにも取り組める!!」といったポジティブシンキングで時代に即したチャレンジをしていきましょう。